

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク

2013年10月15日

容器包装の3R推進に関する
小委員会ヒアリング資料

**EPR(拡大生産者責任)の原点に立った
役割の見直しと新しい主体間連携
容器包装リサイクル法改正に向けて
市民案(第二次案)を2013年4月17日にまとめました。**



2011年8月31日、全国から394,165筆が提出された「容器包装リサイクル法の見直しを求める請願」は、衆議院と参議院で採択されました。請願内容は以下の通りです。

- ①容器包装リサイクル法の役割分担を見直し、分別収集・選別保管の費用負担のあり方を検討する。
- ②リデュース、リユースを促進するため、様々な課題への対応について検討する。
- ③製品プラスチックのリサイクルを進める仕組みのあり方について検討する。

<1> 改正市民案のポイント

- リサイクルを「廃棄物処理」と位置づける時代は終焉しました。**リサイクルは製品製造の循環プロセスの一環**と位置づけ、限りある資源を高度に循環利用し、資源の有効利用と環境負荷削減を進める制度に転換します。
- ごみ処理は市町村の仕事ですが、リサイクルは製品を作り販売する事業者が責任を持ちます。製品の価格にリサイクル費用を内部化することによって、消費者もリサイクル費用を負担します。そうすることでリサイクルしやすい製品への誘導や、**リサイクルよりも優先して2Rを推進**することができます。
- リサイクル費用を、製品を設計し製造するメーカーにフィードバックすることで、容器包装の発生抑制、リサイクル費用の最小化、消費者が「もったいない」を実感できる制度、その**ポイントとなる社会経済システムがEPR(拡大生産者責任)**です。

<1>. EPR（拡大生産者責任）の原点に立ち、特定事業者、消費者、行政など、各主体の連携の下に、現行の役割分担を見直す。

- ① 回収を含めて、容器包装の再商品化については、特定事業者の責任とする。
（＝リサイクルを市町村の責任から切り離し、生産者の責任とします）**

一定のリサイクルの質を保ちながらこれだけ国民の間に普及したのは、分別収集を市町村が担ったからである。しかし、これを全面的に税金で賄うことにしとことで、その効率性、特に費用の増大を招いた。この分別収集を市町村が担うことの長所を活かし欠点を是正するために、市民案では、事業者自ら回収できない場合、分別収集の物理的役割は、これまで同様市町村が担うこととした。

- *特定事業者は自ら回収できない場合に、市町村の分別収集に委ね、その費用を標準費用に基づき、市町村に支払い、その責任を果たす。**
- *市町村が回収したアルミ缶、スチール缶、段ボールや紙パックについても、事業者が標準費用に基づき、分別収集費用を支払う。**

②回収については、多様な民間主体の回収システムを構築する

*店頭回収、集団回収等を容器包装リサイクル法の回収システムに位置づけ、回収された容器包装が適正に再商品化されることについて、特定事業者は、その責任を負う。

*飲料ペットボトルは、市町村回収から切り離し、事業者の自主回収システムを構築する。回収率が一定基準以下の場合にはデポジット制度に移行する。

後述のデプスインタビューの結果を踏まえて、見直しが必要。市町村回収を基本とする方向へ検討中。

<2>. リサイクル優先から、リデュース、リユース優先のシステムへ

① レジ袋は有料化し、大幅に削減する。

② Rマークをリユースマークとして制度化し、リユース容器の規格統一と消費者の認知を高め、普及をはかる。

③ 学校給食でリユースびん牛乳を普及させ、教育現場での2R優先を実践する。

④ 官公庁の会議などではリユースびん入り飲料を積極的に使う。

<3>、容器包装リサイクル法の定めるシステムは、そのシステム稼働に係る環境負荷および社会的費用の最小化を目指して、特定事業者、消費者、行政の各主体は、連携して各々の責任を果たす。

① プラスチックは、分別収集後の一次選別・保管を市町村から事業者に移すことで、二重の選別をなくし、合理化する。

② 市町村は分別収集の効率化に努めるとともに、その費用を公開する。

③ 国は分別収集の標準費用の算出を行う。

④ 国は発生抑制目標、リユース普及目標、リサイクル率目標を設定し、その達成に向けて指導監督する。

<2> デプスインタビューの結果を踏まえて

市民案は一般の市民に、どのように受け止められるのか？



2013年8月、デプス・インタビューを実施
「2R推進強化の為の生活者意識調査」

	プラ・リサイクル実施 自治体 (横浜、川崎、杉並)	プラ・リサイクル未実施 自治体 (文京区、豊島区、板橋区、北区、墨 田区、世田谷区)	
20代独身女性	1名	1名	
子育て主婦	2名	ごみ意識高い層	ごみ意識低い層
	30代主婦	2名	2名
	40代主婦	30代主婦	30代主婦
		40代主婦	40代主婦

<3-1> 3R、2Rの認知理解

	意識
共通意識	<ul style="list-style-type: none">・リサイクルは全員理解している・3Rの優先順位も含め理解している人は皆無であった。・容器包装リサイクル法について、聞いたことがある人は3人だが、内容を理解している人は皆無であった。・行政が定めたルールは従うが、法律や行政のスタンスにまで関心はない
異なる意識	<ul style="list-style-type: none">・3Rの言葉の認知は、リサイクル:リユース:リデュース=8人:3人:1人であり、優先順位の逆の結果になっている。・リユースと聞いて、フリーマーケット、ブックオフなどを連想した人がいる。・子供から聞いている、という人がいた。

<3-2>【市民案の考察】3Rの認知理解

市民案	・3Rの認知度を高める
考察	・3Rの認知度を高める施策、運動が必要 ・子供から知る人も多いようなので、学校教育は、特に重要。 ・

<4-1-1> 買い物時のごみ環境意識とプラ容器包装

	意識
共通	<ul style="list-style-type: none">・ごみ環境問題を考えながら商品選択している人は皆無・スーパーの売り場で過剰な包装があふれているという実感はない。・詰め替え容器商品を購入するのは当たり前になっている。その理由は、「毎回大きくて重いボトルを買うのが大変」、「毎回、ボトルを洗って分別して捨てるのが面倒」「詰め替えの方が経済的」。・プラスチックごみが自宅で保管する時、ごみとして出すとき、プラごみの増加を感じる。
異なる	<ul style="list-style-type: none">・買い物時にごみ環境問題を考えて商品選択しない。・かさばるプラスチック容器やトレイを自宅に持ち込みたくない。・

<4-1-2>【市民案の考察】買い物時のごみ環境意識とプラ容器

市民案	・発生抑制をEPRで進める
考察	<ul style="list-style-type: none">・買い物時にゴミ環境を考えて商品選択する人は、非常に少ない。・自宅にごみが増えることが嫌だからという選択意識はある。・発生抑制を、消費者のごみ環境意識の変化で解決しようとするは無理がある。・川上、上流、商品設計段階での発生抑制効果が生まれるEPRの徹底が、最も有効な方法である。

<4-2-1>レジ袋について

	意識	行動
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・お金は節約したい ・有料化は時代の流れで仕方がない ・レジ袋はゴミ袋に使える 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイバッグを持っている
異なる	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋が溜まる一方 ・有料になったらマイバッグを持ち歩く。お金が優先 ・レジ袋はゴミ用に少し必要 ・レジ袋が有料になると、ゴミ用に改めて購入する必要がある。 ・全部有料になったら、考え方が変わる、踏ん切りがつく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋を断るが、ゴミ用にたまにもらう。 ・レジ袋に入れてもらっている。

<4-2-2>【市民案の考察】レジ袋について

市民案	・レジ袋は有料化する。
考察	・有料化は、お金を節約したいとの意識とは逆行するが、時代の流れであると感じていて、積極的な賛成ではなくても、賛成されている。 ・ごみ袋用に多少必要であると感じていることについて、どう答えるのか、また、一部無料を残すのかは、課題である。 ・有料化は、食品だけの義務付けか、衣料品、薬などどうするか？の整理も課題である。

<4-2-2>【市民案の考察】レジ袋について

<4-3-1>リユースびん/学校給食の牛乳

	意識
共通	<ul style="list-style-type: none">・リユースびんは昔の形骸化した記憶になっている。・環境のため、あえてリユースびんを選ぶ人は皆無。・びんは重いというマイナス面と、新鮮で美味しい、高級品のイメージのプラス面を感じている。・リユースは自分の生活には簡単には取り込めないという抵抗感が大きい。(重い、割る、高価、近所に返す場所がない)・学校での牛乳びん推進は賛同、公共機関でのリユースのシステムは作りやすいと評価
異なる	<ul style="list-style-type: none">・Rマークは生協利用者と認知されている。・リユースの返却でポイントが貯まるとやる気がでる。・給食がびんなのは、ゴミ環境問題だと子供から聞いた、いい考えと思う。

<4-3-2>【市民案の考察】リユースびん/学校給食の牛乳

市民案	<ul style="list-style-type: none">・リユース容器を普及させる。・スーパーでのリユース容器の扱い拡大・Rマークの国の認定と普及啓発・学校牛乳びんの普及
考察	<ul style="list-style-type: none">・学校牛乳びんについては、賛同されているので、早急な普及を進める・学校でのびん牛乳が子供の家族へもごみ環境意識を高める・リユース商品の普及は、クローズな市場での普及・Rマークの認定は、普及啓発に効果ある。・スーパーでのリユース容器の扱い拡大は、市民意識の現状では困難なので、義務化などは求めないとするほうが良いのでは。

<5-3-1> マイボトルとペットボトルのゴミだし

	意識	行動
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・市販のお茶や水を購入していると不経済。ごみ環境問題としてマイボトルを持参する理由は二次的、三次的である。 ・ペットボトルのごみ出しのルールはよく理解されている。 ・ペットが溢れているという意識はなく、ペットの購入があたり前になっている。 ・行政回収、店頭回収、すて場の違いで回収経路やシステムが異なることは認識されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイボトルを持って、飲み物を詰めて持ち歩いている。 ・ペットボトルは、キャップとラベルを外してリサイクル収集へ
異なる	<ul style="list-style-type: none"> ・お金を節約するため ・自分のハーブティをいれるため ・小学校でマイボトルの持参を禁止することに違和感。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の回収に出す。わざわざスーパーに持っていかない。 ・ペットボトルはスーパーのボックスに入れる ・回収機に入れてポイントを集める。 ・コンビニのボックスに入れる。 ・会社でキャップを集めている

<5-3-2>【市民案の考察】マイボトルとペットボトルのゴミだし

市民案	<ul style="list-style-type: none">・マイボトルを普及させる・ペットボトルは、行政の回収をやめて、事業者の自主回収とする・店頭回収、集団回収を強化し、容器包装リサイクル法のシステムに組み入れる。
考察	<ul style="list-style-type: none">・マイボトルの普及が進んだ、それは「お金を節約したい」からである。・ペットボトルのリサイクル費用の商品価格への組み入れは、「お金の節約」意識に働きかける効果があり、ごみ環境意識啓発になる。・より利便性の高さでペットの捨て場を選択しており、行政回収の中止は、不便さを増し、一般ごみへの混入につながる恐れがある。

<232> 5-3-2 【市民案の考察】マイボトルとペットボトルのゴミだし

<5-4-1>プラスチックごみについて

	意識	行動
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールに従っていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政のルールに従って分別、ごみ出しをしている。
プラ実施地域	<ul style="list-style-type: none"> ・少しでも細かく分別してリサイクルする方が環境によい。 ・マヨネーズやケチャップもきれいに洗っている。 ・どのようにリサイクルされているかは認識されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールに従って分別している
実施していない地域	<ul style="list-style-type: none"> ・燃えるゴミに出せるので、迷いや手間がかからず楽である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールに従って、燃えるゴミに出している。

<5-4-2>【市民案の考察】プラスチックごみについて

市民案	<ul style="list-style-type: none">・プラスチックリサイクルの推進・高度なリサイクル推進・リサイクル費用の軽減
考察	<ul style="list-style-type: none">・プラスチックリサイクルを実施しているか、どうか、市民意識の形成に大きな影響を及ぼしている。・燃えるゴミで出している行政の施策が、「分別をめんどう」という市民意識を形成し、3Rの後退を招いている。・市町村の費用負担の問題を解決し、早急にプラスチックリサイクル回収が実現できるようにする必要がある。

<24> 2014年10月15日

<8-1>2R推進、EPR実施について

	意識
共通意識	<ul style="list-style-type: none">・2R推進は進めていくべき・しかし、自分では何をしたらよいか不明。実践方法を教えて欲しい。・EPRは全般的に賛同できる。・製造者や販売者がもっと真剣に考え、責任を持って商品を製造すべき・EPR実施によるコストアップ、10円～20円くらいの値上げは気にならない・しかし、商品選択する場合は、ごみ環境問題やEPRは忘れて、価格の安い方を選択する。
異なる意識	<ul style="list-style-type: none">・2Rのやり方を、行政のHPに載せるなどしてくれると、やりやすくなる・生協利用者は、生協サイドで推進してくれると、協力しやすい・家電リサイクルでの不正もあるので、EPR実施に不正はないか疑問

<8-2>【消費者の意識】2R推進、EPR実施について

<8-2>【市民案の考察】2R推進、EPR実施について

市民案	<ul style="list-style-type: none">・EPRの徹底を進める・リサイクルコストを商品価格に含め、製造者に向けられた2Rのメッセージを強化する。・コスト競争要因で、発生抑制の推進、リサイクルのコスト削減を推進する。
考察	<ul style="list-style-type: none">・消費税率アップのこの時期でも、市民はEPRによる商品値上げは、許容しているので、EPR実施を早急に進めることに問題はない。・買い物の際は、価格が安い方を選択するという消費者の意識は、EPR後も製造者のリサイクルコスト削減推進の原動力となる。

容器包装リサイクル法により、リサイクル費用の15%程度である「再商品化費用」はすでに内部化されていて、そのことによる価格の上昇は容器の薄肉化等により抑えられている部分があるが、これこそが拡大生産者責任が求めるメカニズムである。

リサイクル回収費用も内部化することで、容器包装リサイクル法のそもそもの目的である発生抑制がさらに進むことになる。この内部化によるコストアップを如何にして最小限に食い止めるか、これこそが循環基本法の求める事業者の責務である。